

COMIC MARKET

31~39

(TRC・第2期晴海・幕張)





カタログ表紙：竹田やよい

代表あいさつ（コミケットカタログより）

新天地 T R Cでの再出発に向けて

その広さと孤立性(陸の孤島)でコミケットを巨大化させてきた晴海はある意味で楽園でした。しかし、禁断の果実に手を出さなかったにもかかわらず、コミケットはエデンを追われてしまったのです。昨今の見本市ブームもあって、晴海において異端だったコミケットは、はじきとばされてしまったのです。それ自体充足してしまうイベントであるコミケットは企業や一般にとって何の利益もたらさないし、どれだけ巨大化しても一般を巻き込む影響力を持ちはしません。おおかたの人達にとって、コミケットは無意味ですし、別世界の出来事にすぎないのです。——だからこそコミケットを求める人達にとっては特別な意味を持っているのかもしれません。なんにしても、今想うのは場所の維持だけです。

市民プラザを追われ晴海に来た時も、コミケットは工
デンを追われたアダムとイブの感がありました。それか
ら五年。——歴史は繰り返されます。今後はＴＲＣをコ
ミケットの為の場と化していくかなければなりません。用
意された楽園など何処にもないのです。創り出していく
ことこそを考えていかなければなりません。多くの変化
を受け入れ、生き延びていくことが当面の目的ですが、そ
こを楽園に変えていくことは参加者全員で行っていかな
ければならないことです。なあに、それはそんなに難しい
ことではありません。ちょっとした人への気配り、ルー
ルを守ること、常識を持つといったことなのです。とりあ
えず、コミケットは再スタート。参加者の皆さんも初心で
今日を楽しんで下さい。

C31 データと概況

開催日:1986年12月27-28日
会場:東京流通センター大展示場
参加サークル数:4,400SP 参加者数:40,000人

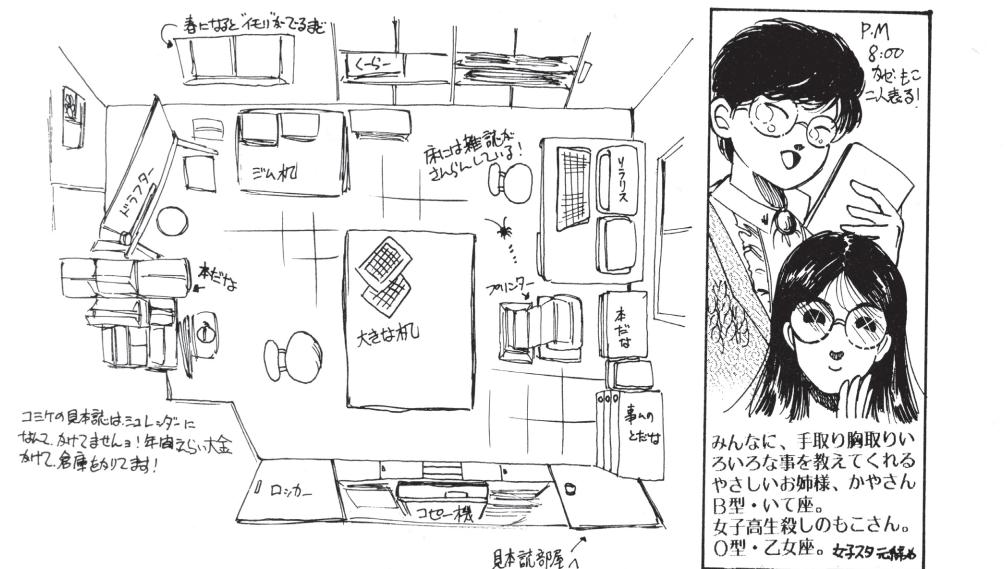
紙表・夏の高・フレグ・じ刊切新田由美子
この回より会場が変わり、平和島の東京流通センター（通称TRC）で最初のコミケとなる。会場面積が小さくなつたため、2日間開催となる。宅配便会場着の導入やカタログの書店売りなど、新しい試みが始まる。

マンレポ *PICKUP*

C32カタログより抜粋



コミケット31カタログより



この頃よりコミケットの事務作業のための部屋をかりた。
そのヒサンな状況をマンガでレポートした記事。



カタログ表紙：宇部宮斎

代表あいさつ（コミケットカタログより）

12年目の暑い夏（コミケット32）

今回は2度目のTRC、夏の暑い2日間をすごすのは初体験。涼しければいいなあ、問題がなければいいなあ、楽しければいいなあー。思い願うことはいっぱいあるのですが、果してどうなることやら、全てはフタを開けてみるまでわかりません。それが、コミケットなのです。あらゆる予想や期待をはぐらかしつつも混沌と盛り上る無秩序の秩序。コミケットの楽しさは、何があるか、何が起こるかわからない予定調和を裏切るなりゆきなのですし、破壊にまでは至らない持続する安定です。それは微妙なバランスの上に成り立っている”砂の城”に似ているかもしれません。砂を固めている水分が失ったときは、崩壊していくしかないでしょう。いうまでもなく、コミケットを成立維持させているのは、サークル、一般参加者、準備会…全ての参加者の持つ、コミケットを存続させようとする意志なのですし、何事もなく楽しい一日を過ごそうとする姿勢でしょう。

そうしたものになんとか支えられて、重くなった体をもて余し気味に、コミケットは今12年目の夏をやり過ごそうとしています。これまで続けてきたから、これからも続していくわけではなく、続けていくこうとする意志を各参加者が確認るべき時期に来ているといえるかもしれません。各種即売会が次々と開かれ、それぞれが定着していく中で、コミケット本来の意味は失われつつあるようですし、その設立趣旨も忘れ去られようとしています。

一何の為の即売会なのか。それを求めるのは、マンガファン、アニメファンではなかったのでしょうか!? 求めるものを自らの力で創り出していくプロセスの中に楽しみはあったのではないでしょうか。

今一度、自分と、自分の求めるものをこの場で確認していただければ幸いです。

C32データと概況

開催日:1987年8月8-9日

会場:東京流通センター大展示場

参加サークル数:4,400SP 参加者数:60,000人

カタログ表紙:宇部宮斎 カタログ価格:400円

うちわ:Alex 紙袋:Dr.モロー テレカ:須賀邦彦/松田紘佳/おおや和美/真鍋譲治
すさまじいまでの混雑が起きたコミケット。参加者の行列が2kmを超える、京浜急行線「平和島」駅に達するほどとなり、警察からの注意を受け会場時間は早めた。コミケマリモの愛称がついた巨大ワタボコリが発生。

マンレポ PICKUP

C33カタログより抜粋



コミケット32カタログより



他人にやられたら嫌なことは、自分もやらないようにしましょう。自分一人ぐらい…と思っていても、そういう人が10人、100人いたらどうなるのか、考えてみて下さい。自分が横入りした後、自分の前に横入りされたら”ムッ!”となるでしょう？ 正直者が馬鹿をみないようになればいいね。



12月27.28日
コミケ引は終った…
つかの間の休息の後
戦士たちにまつたのは、



コミケット32の申込総数は約6400サークルです。
キャラバティーや約4600スペース、約1800サークルが残念ながら抽選に
もれてしまうわけです。本種類が多いからダメーサークルを作ってスペースを
増やす等は、やめて友人のところにでも置かせてもらいましょう。今回、ダメー
サークルで参加したあなたのせい、本当に参加したかったサークルがいくつ抽
選もれましたことか…
1800人の祝いの力でいつか災いがあなたの身にも及ぶかることでしょう。
(洒落です)





カタログ表紙：本多且典

代表あいさつ（コミケットカタログより）

春のコミケットからわずか4ヶ月、早くも夏の暑いコミケットがやってきました。この早いペースは、今年だけ、以後元通り年2回（夏と冬）に戻る予定です。コミケットしかなかった昔とは違い、毎週日曜日何処かで即売会が開かれている昨今、即売会そのものとしての意味は以前より薄れつつあるかもしれません。その中で、コミケットは間口の広さと巨大さで他とは違った方向性を見せています。それはイベントとしては魅力的ではあるでしょうが、持続させていくことを難かしくしていることは周知の事実です。ほぼ晴海全体を使用して開かれる今回を最後にコミケットは次回より東洋一の会場幕張メッセ（コンベンションセンター）に移ります。7年間に及ぶ晴海時代（途中3回ほどTRCで行われましたが）に区切りをつけられ、新しい時代が始まると考えていただいた方がいいでしょう。新館8個分が一つの会場であるメッセは、コミケットの巨大さをとりあえずは引き受けってくれます。しかし準備会の体勢、机、イス等の設営の問題もあって年2回、2日体制を変えることはできそうにありません。そして、かつて晴海が最後の地であったように、幕張も究極のコミケット会場なのです。

究極とは、つまりは、とどのつまりのことでもあります。至高一高みに至ることとは、もうそれ以上何処へも行けないということもあるのです。新天地へ移ることとは、新しい旅発ちであると同時に追いつめられたコミケットの状況を示してもいることを覚えておいてもらいたいのです。新しい会場を楽しく、しかも何事もなく、一般（普通の人）を安心させつつ使うこと、そして晴海にいい思い出とさわやかな気分を残して去ること。それはコミケット参加者全てが心がけねばならないことではないでしょうか。何時までも幸せな時間を望むことは、過去も未来もそうであろうとする意志、心がけから始まるような気がするのです。

C36データと概況

開催日: 1989年8月13-14日

会場: 晴海国際貿易センター／東館+西館+新館1F

参加サークル数: 10,000SP 参加者数: 100,000人

カタログ表紙: 本多且典 カタログ価格: 600円

うちわ: たつねこ 紙袋: へうがけん

宮崎勤事件の余波で、スタッフはマスコミ対応に追われる。この回で晴海とは一旦お別れ。このころオタクという言葉が定着。

マンレポ PICKUP

C37カタログより抜粋



コミケット36カタログより



またまだ登場いかさまスポーツ! カタログ掲載号第二弾の快挙を成し遂げてスクワード同狂喜乱舞してと言う噂もチラホラ出でる様子。前にどうか見て見よう、まっせいか!

まあ、そんなこんなで、今回のネタは、なんと次回コミック37で使わせてもらう予定の、

「日本コンベンションセンター幕張メッセ」通称「メッセ」だ!

シコでもなければ足が棒になるのは間違い無し! 翌日足に身がはいつてたばるやからがどんだけ出るかが今から楽しみだぞ! そして忘れちゃいけない新規事業エリアは、会場内に3店舗、「幕張茶屋」(約300席)、「CENTRAL CAFETERIA」(約300席)、「NOA」(約650席)があること! まあ、東京ディズニーランドのレストランのよう高い! 駐車場は、三拍子でを迎えてくれる可能性はあるってさ。

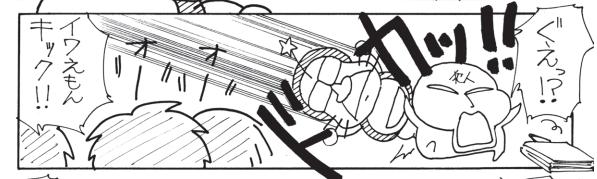
さて、次は会場内だ。会場内は、8つのホールと、これは云ても別に壁で仕切られるわけではない。2つの連絡路がある。入口と北側の両脇には、階のペラグ（サークル通路と称している）を通じる階段があり、中と比べてみると「天国と地獄」が体感出来るなかなか良い見識としている。なんひとつたって、どちらも必ず灼熱地獄で舌んで今まで比較される可能性はある。また、全館が喫煙完備となることだよ! どうも、そこまで燃えやしないかね? そりゃあねえよ! どうも、それがマッセの説明の趣旨だ! しかし、ここで忘れてもらつては困るポイントがある。

どうも、マッセは、タバコを吸ってもしょうがないわけだ。だから可能な人は10月のモーターショウででも行ってチェック厳しくぶちまかしてほしいつーこと。

だから、いくらタバコを吸ってもしょうがないわけだ。だから可能な人は10月のモーターショウででも行ってチェック厳しくぶちまかしてほしいつーこと。

カタログでは次回会場となる幕張の現地レポートを掲載。

救護室からのお願い



Dr.モロー氏の諸注意マンガより。

晴海、TRC、晴海、幕張メッセ、晴海と会場を変えながら、回を追うごとにサークル数を増やし、参加者を急増させていったコミケットは、イベントを安全に運営していくためにシステム、組織の形に手を加えると同時に、サークルや一般に向けてさまざまな試みを行っていくことになる。印刷所の直接搬入、宅配便受付などはサークルに必要なものとして取り入れ、トーン、文具の販売ブース、飲み物などは参加者への利便を目的としたものだった。拡大していった更衣室、お医者さん、看護士さんを充実させていった救護室などもコミケットの拡張に伴い大きくなっていった。92年からはコミケットを記録する活動も行われている。

また混雑サークル対応に向けて、85年頃には一時「Xブロック」が設けられ、これが幕張におけるモール、戻り晴海における「A館体制」「南館特別配置」へと発展していくことになる。列ができるサークルを区分する形での安全対策は、現実的対応ではあったが、コミケットの意味ともぶつかりあい、やがて非常口、シャッターポートなどをを使った方法に改められていった。

設営の手伝いサークルを増加させるために、事前（前日）受付、ひっそりと配られた「幸せの黄色い封筒」なども行われた。そして、サークル間のコミュニケーションと記念的なライブ記録としての「ブロックノート」、カタログにおける「マンガレポート」。手紙の書き方、申込書の書き方など役立つ情報を掲載すると共に、カタログでは、ファッショントーク、防寒対策などさまざまな記事を掲載していくことになる。現実的な対応策だけでなく、参加者の利便を計るための試み、表現や同人誌活動に向けての情報、メッセージ、安全対策。さらにスタッフ間の交流のための新年会やレクリエーションなどなど。コミケットの名で行われてきたことは多く、今は失われたもの、進化しシステムに組み込まれたものもあり、それもコミケットの歴史の一つである。

救護室からのお願い
C36カタログより



コミケットで毎回少しづつですが
命病が出ています。救護室はあります
が学校の保健程度の差露しかでき
ません。若者の命は守らなければ
以下の事項を守って下さい。

①併存疾か併存疾のコピーを用意する。
万一病院にて併存証が無いと、
1万円くらいかかります。

②持病のある人は日頃使用してある薬を
持参する。救護室には一般的な薬は
ありません。

③食事、睡眠をきちんととり、体調の
すぐれない時には無理しない、ついでに
無理をして無理をやさしくして下さい。

④救護室に詰ま込まれるときは、なるべく
友人が付き添って下さい。病院にい
に足かせない場合もあり、同行者が
いたほうが便利です。

救護室は東館入口にあります。

コミケット教養講座
C29カタログより



コミケットスクランブル
C26カタログより



コミケットファッション講座
C41カタログより



ブロックノートセレクション
C38カタログより



日本を震撼させ、大きな騒ぎを巻き起こした宮崎事件は、マンガ・アニメ・特撮などのファンたちの存在を浮上させることになり、与えられた「オタク」という言葉と共に、マスコミで否定的に扱われていくことになる。オタクバッシングは、半年以上続き、宮崎も参加したことがあったことから、コミケットも叩かれる対象となっていました。また、「オタク」側からの自己確立に向けた分析、評論などの言説も次々と発せられていった。





カタログ表紙：新田真子

代表あいさつ（コミケットカタログより）

注目を集めているということを覚えておいてほしいと思います。何がって、つまりこの新しい会場である幕張メッセがあり、アマチュアの手によるイベントにも関わらず、十万人以上が集まるようになったコミケットがあり、マンガ、アニメファンであり、同人誌という存在がです。コミケットは、同人誌マーケットとしてありながら、マンガファンやアニメファンにとって、2日間のお祭りであり、それは実に心地よい空間です。

ここにいる人達はみんなマンガやアニメが好きで、全ての人とのコミュニケーションは不可能としても、何かを共有しているという心強さと安心感、みんな仲間なんだというなんとはなしの連帯感がそれを創り出しているのでしょうか。それは内輪（拉大ではあります）のパーティであり、趣味を同一にする人達の集会でもあります。モラル、マナー、常識といった人にとってのルールは守ってもらうにしても、この空間は自由な場です。そうした場としてコミケットはあり続けるはずです。ただ、それを一步外から眺めると、全く別のものに見えてくるのも事実なのです。違う情報体系を持つ人達、虚構（フィクション）を楽しむことのできない人達、紋切り型の常識で物事を判断する人達……、そうした人達の目には、コミケットはなんとも不可解で異次元の世界に見えるかもしれません。そしてそれを自分達に解るモノにしてしまおうとレッテルを張り、位置づけようとしています。だが問題は、人がどう見たかではなく、自分がどうであるかということのはずです。キ然としていて欲しいと思います。表現をすること、仲間と出会うこと、楽しむこと——それぞれは人によって違うのは当たり前です。自分のやっていることに責任が持てるなら、そしてそれをきちんとやれるなら、他人の目を気にする必要はありません。価値観は相対的なものですから。ちょっとリサービスはしてもいいのですけれども。つまりは、わかつてもらおうとする努力のことです。——ヨロシク。

C37データと概況

開催日: 1989年12月23-24日
会場: 日本コンベンションセンター／第2～5展示場
参加サークル数: 11,000SP 参加者数: 120,000人
カタログ表紙: 新田真子 カタログ価格: 600円
紙袋: へうがけん

幕張メッセ（千葉県）へ移っての初めてのコミケット。
会場は広くなったが、その分移動に時間がかかるようになった。
両日とも雨が降り、とても寒いコミケとなった。

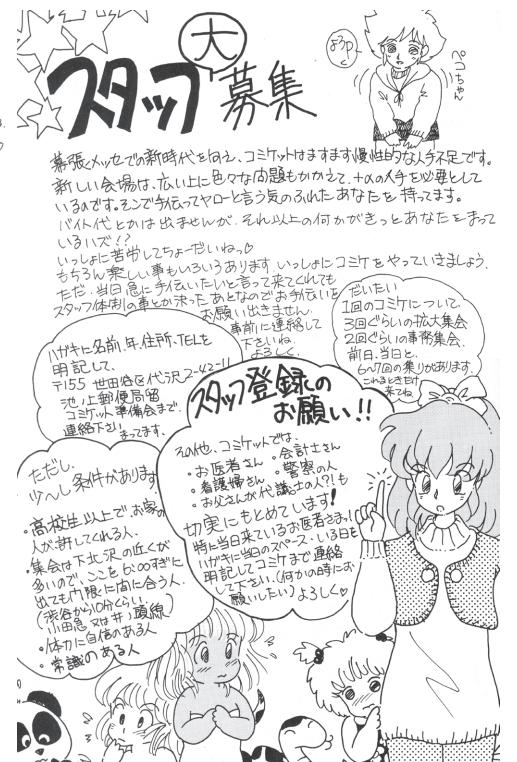
マンレポ PICKUP

C38カタログより抜粋



コミケット37カタログより

コミケット37大募集

コミケット事務局よりの
おしらせ



カタログ表紙：岩崎つばさ

代表あいさつ（コミケットカタログより）

暑い夏がまもなくやってこようとしています。そしてコミケットは幕張で初めての夏を迎えます。住み慣れた晴海を離れ、東洋一を誇るメッセコンベンションホールで行なわれた前回は、それなりに成功だったといえるでしょう。それほどのトラブルもなく両日を終えることができたからです。一つには前回のコミケット以外のイベントが重なっていなかったからでもあるでしょう。しかし、今回は噂の“恐竜博”“現代美術展”が当日開催されています。家族連れや一般の人とトラブルが起きないようにしてもらいたいし、何度も言っている常識やモラルは熱くなっていても忘れないでほしいと思います。また、交通のことがあります。夏には幕張から稻毛の浜は湘南並みのサーファーのメッカになると聞いていますし、メッセ裏の海浜公園には日曜日には三万人からの人手があるということです。更に、日曜夜には千葉スタジアムにおいてTUBEのコンサートがあるはずですし、京葉線途中のディズニーランドに向かう人手もかなりのものだと思われます。そう、まさに時は夏、行楽のシーズン真盛りなのです。もちろん、コミケットとて一つの夏の行楽かもしれません。リゾート地ではなく、ちょっとばかり熱い会場に向かうという違いはあるのですが……しかし、忘れてもらいたくないことは、コミケットは一つの表現の場であり、出会いの場であり、同人誌の受け渡し場所であるということです。お祭り的な熱狂を楽しむことはかまわないにしても、この場の中心にあるのは「作品」であり「人」であるということを知っていてもらいたいと思います。容器が巨大に膨れあがり、人がいかに集まろうと「作品」が不在では、場の意味は失なっていくでしょう。そして、ステキな作品との出会いは、人との出会いは、参加者に何かをもたらすはずなのです。行楽とは、楽しみにいくだけでなく、何かを見つけに行く旅でもあると、ぼくは思います。

C38データと概況

開催日:1990年8月18-19日
会場:日本コンベンションセンター／第1～4展示場
参加サークル数:13,000SP 参加者数:230,000人
 カタログ表紙:岩崎つばさ カタログ価格:700円
 うちわ:うたたねひろゆき 紙袋:くまだまり、マークII
 一般参加者が急増し、大変な人出となったコミケット。
 一般参加者待機列がメッセの会場を一周した。
 晴海での夏コミに比べると、冷房の効きが良く好評に。

マンレポ PICKUP

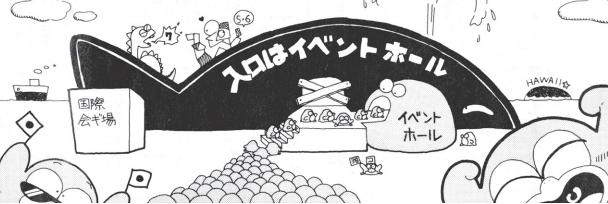
C39カタログより抜粋



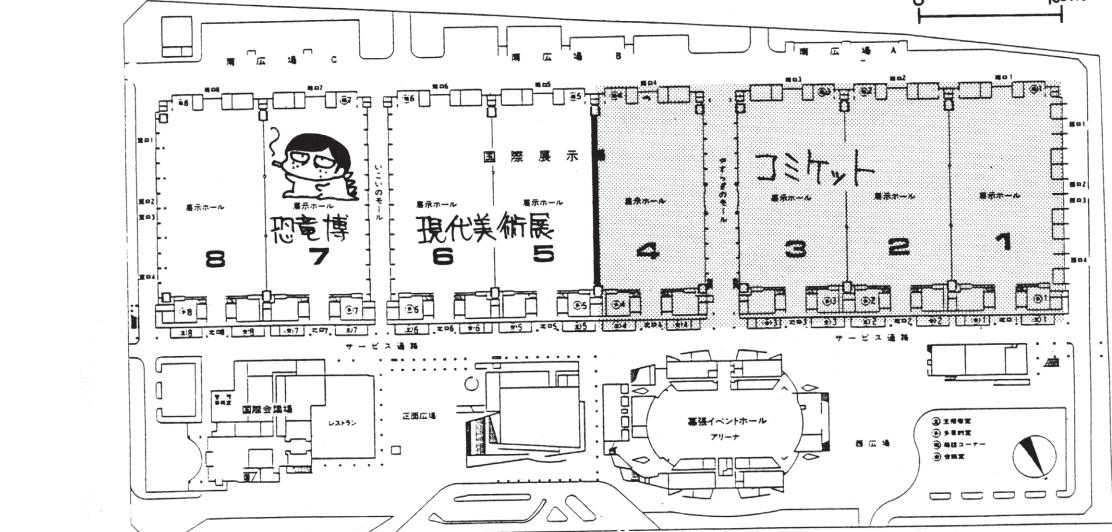
コミケット38カタログより

たのしいヨコカト38

諸注意

●幕張メモセ編●
(またの名を日本コンベンションひでタヒウ)

入口はイベントホール



併設イベントがあるため、一般参加者を手前のイベントホールに溜めてからホールに流していくという導線だった。カタログでも詳しく紹介されている。

カタログ記事より、自分の好みの同人誌を探すためのTips



まず探したいという気持ちは大切です。見つけよう・手に入れようという意が無い人は発見することはできません。熱意さえあれば大半の問題は解決します。

即売会によっては行列ができるサークルがあるかもしれません。そのサークルの行列で時間・体力を消耗してしまうのは愚かです。最近は発行部数も多く、よっぽどの特殊本でない限り、並ばずに買えます。午後にになって落ち着いてから、そのサークルに行ってきて下さい。仮に新刊は売切れてしまっていても（そのような例も少ない）、バックナンバーは必ず買えるはずです。ただし、午後もあまり遅いと完売したり、帰ってしまう場合もあるかも知れません。だいたい2時までが目安でしょう。

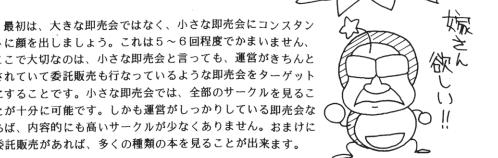
便箋・バジなどのアイテムは、よほど変わった物でない限り買わな方が無難でしょう。このようにして、回数・小さな即売会に参加していると気がついてくることがあります。

①面白い本は実に少ない。
面白い本=1% 読める=9% がっかり=90% こんな比率になると思います。絶望してはいけません、どのジャンルでも1割程度しか良い本は残らないのですから。もちろん、この判断は人によって異なることに注意して下さい。要是自分が面白ければ良いのです。

②面白い本を出しているのはいくつかのサークルである。
比率は①と同じでよい。

③面白い本は何が違うか。
面白い本=1% 面白い本=9% 面白い本=90% これが大切なことです。自分にフィットした感覚が大切なことです。

この感覚がつかめれば、特に小さな即売会にこだわる必要はありません。大きな即売会に行ってもよいでしょう。



最初は、大きな即売会ではなく、小さな即売会にコンスタントに顔を出しましょう。これは5～6回程度でかいません、ここで大切なのは、小さな即売会と言つても、運営がきちんとされていて委託販売も行なっているような即売会をターゲットにすることです。小さな即売会では、全部のサークルを見ることが十分に可能です。しかも運営がしっかりしている即売会ならば、内容的に面白いサークルが少なくありません。おまけに委託販売があれば、多くの種類の本を見ることが出来ます。

重要なことは、「ここで、素晴らしいレベルの高い本を手に入れるのが目的ではない」と言うことです。これらの即売会で、面白い本があれば良いのは勿論ですが、過度の期待を持たれても失望する場合の方が多いでしょう。それよりも雰囲気に慣れるこの方に力点をおいて下さい。何回か参加すると、表紙に惑わされる事なく、ある程度内容が判断できるようになります（この経験が無いと大きな即売会で迷ってしまうことになります）。興味を引いたら必ずサークル名をチェックしましょう。できれば手帳にメモ程度で特徴とポイントを書いておけばベストです。



39



カタログ表紙：おときた・たかお

代表あいさつ（コミケットカタログより）

幕張の地での3回目——何の因果でX'マスにコミケット、とおなげきの方もあるでしょうが、とりあえずは90年をしめくくる今回であります。そしてコミケットは正しく15年目の冬を迎えたのです。サークル数は600倍、参加者は300倍に膨れあがり、同人誌の内容も様々に変化しました。変わるのはアマチュアのアマチュアによるアマチュアのためのイベントということだけでしょう。しかし、実際にはプロの参加も増え、ミニメディアの市場化していることは否めません。そこにはアマチュア出版物故の自由さと奔放さがあり、それが商業出版物にはない熱気と面白さを生み出しています。閉塞状況に陥りつつあるプロのマンガに比べ、規制のない面白さへの貪欲さが、表現者にも受け手にも魅力になっているといえるでしょう。なんでもありの撃破りの自由さは、同人誌の可能性の保証でもあるはずです。が、頒布という形で本をやり取りする時に一つの責任が生まれてくることは知っていてもらいたいのです。表現の自由、取り引きの自由——それは大人としての責任があつて成立するものです。コミケットの参加者は、例外外からどう見えようと、全員が大人であるという前提で行なわれています。コミケットで求められている常識やモラル、マナー、それらは一般社会においても必要なものですし、実は今社会から失なわれていきつつあるものもあります。いい意味での大人になってほしいと思うのです。人のことを考え、自分のことに対する責任を持つ……ちょっとお説教じみてしまったようです。というのも、大きくなつたコミケットには少なからぬ社会的責任というものが生まれつづるからです。

自由さは、そしてそれにぎわいは何時の時代も一部から敵視されています。それから生き延びていくためにも、自ら恥じることなく、どうどうとしていたいのです。それは参加者全ての人にも言えることだと思います。

C39データと概況

開催日: 1990年12月23-24日
会場: 日本コンベンションセンター/第4~7展示場
参加サークル数: 13,000SP 参加者数: 250,000人

カタログ表紙: おときた・たかお カタログ価格: 700円
 紙袋: 熊田まり

特に問題も起こらず、これまで最大の規模でとり行われたが、幕張メッセでの開催はこれが最後となった。

マンレポ PICKUP

C40カタログより抜粋



コミケット39カタログより

わのいにコミケット39

諸注意

●幕張 Xリエ編●

(おときた・たかお)

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

監修: おときた・たかお

原作: おときた・たかお

キャラクターデザイン: おときた・たかお

色彩: おときた・たかお

音楽: おときた・たかお

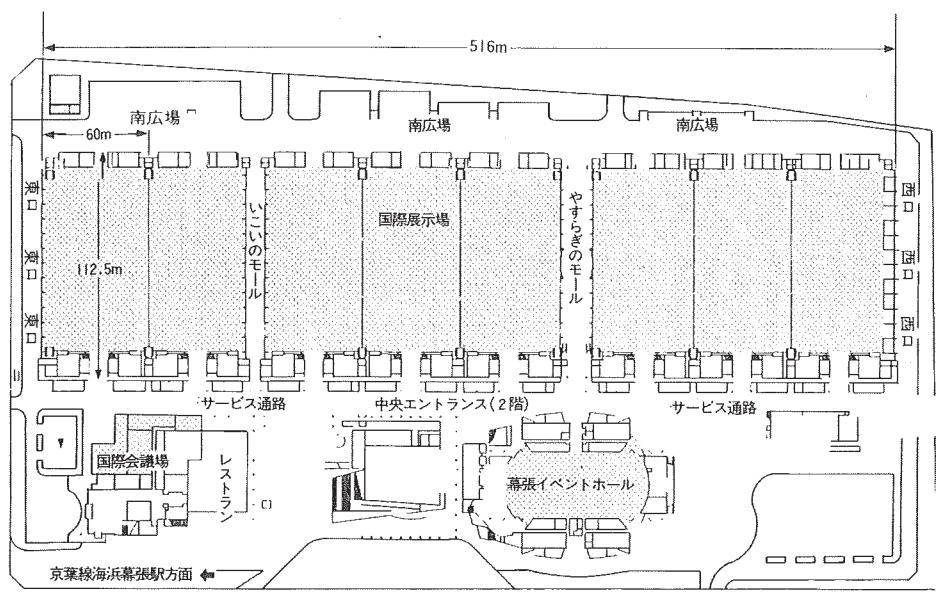
編集: おときた・たかお

企画: おときた・たかお

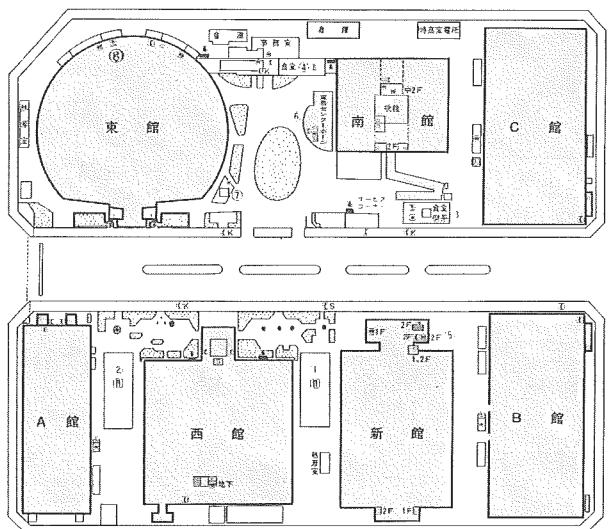
監修: おときた・た

コミケット会場比較

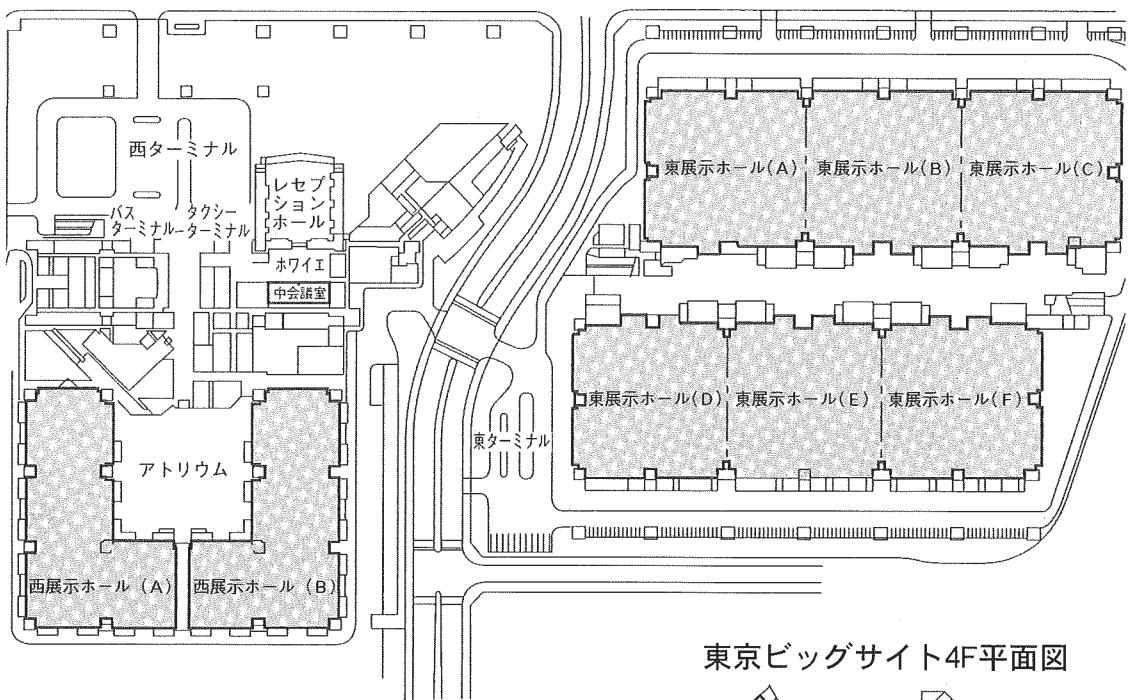
幕張メッセ



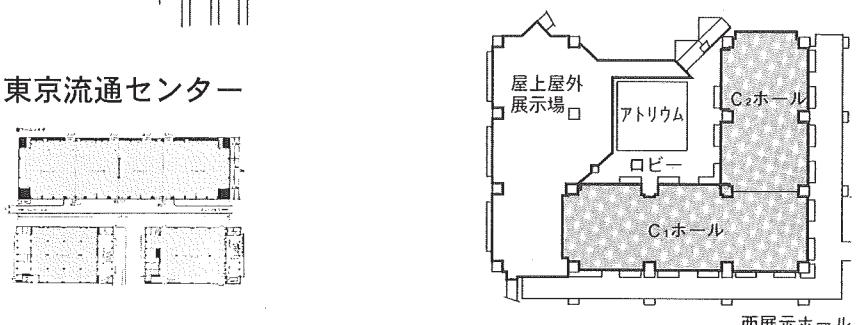
晴海国際貿易センター＆国際見本市協会



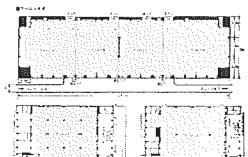
東京ビッグサイト1F平面図



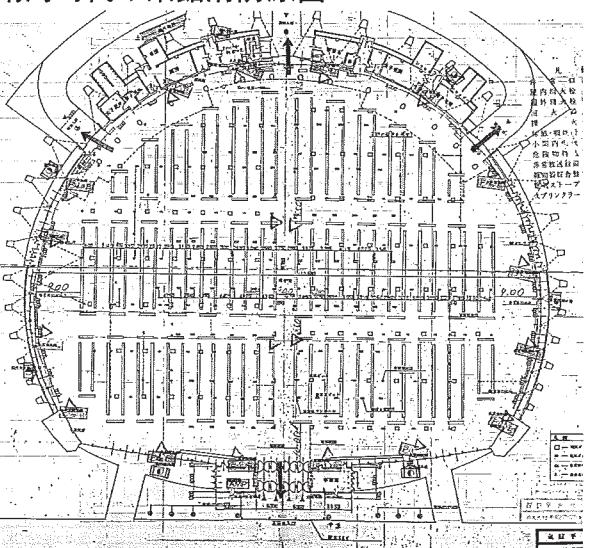
東京ビッグサイト4F平面図



東京流通センター



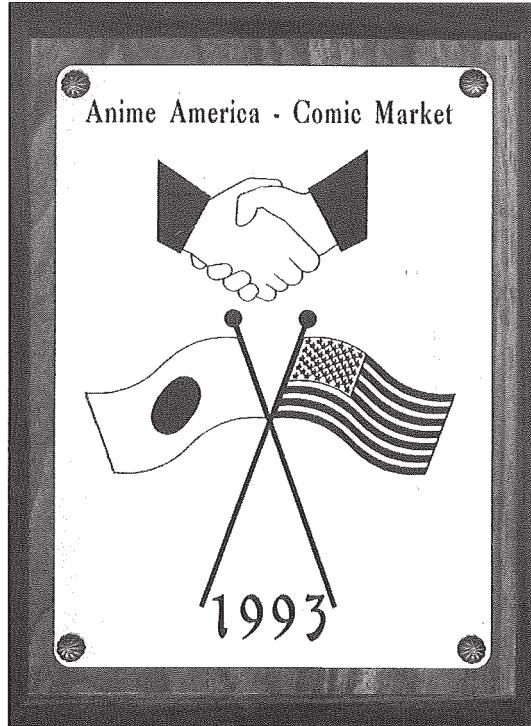
晴海時代の東館消防原図



その参加する人数、状況によって次々と会場を移転してきたコミケットは、会場にあわせてシステムを変化させていったし、会場の雰囲気がコミケットのイメージづくりに大きな力となっていました。その面積の比較なども含めて、比率で、ビックサイト、晴海会場、幕張メッセ、東京流通センターの会場図をここには集めてみた。会場の中に入ると解らなくなるが、こうすることでその大きさや構造上の違いが見えやすくなると思われる。

90年代、アジアやアメリカでは日本のマンガ・アニメのファンたちが急増していき、そうしたファンイベントが開かれるようになっていった。準備会スタッフのアメリカ人からの要請もあり、コミケットは92年、アニメアメリカに正式招待され、友好を深めることになる。残念なことにこのイベントは4年で終えることになるが、同様のイベントは現在、アメリカのみならず、ヨーロッパ、アジアなどでも多く開かれるようになっている。コミケットは、アメリカの「カツコン」「やおいコン」、イタリアの「ロミックス」などに招待参加、台湾、韓国、フランスなどからのレポートも届いた。現在、各国からコミケットに参加する人々は年々増えており、マンガ、同人誌の聖地としてレポート記事が掲載され、何ヶ国かにはコミケットを日程に組み込んだ旅行ツアーがある。そんな中、04年9月にはイタリアのヴェネツィアビエンナーレの日本館展示「OTAKU」に、コミケット準備会は出展者として参加し、CD-ROMカタログの表紙を使用したポスターが、ヴェネツィアの街に貼られることになった。

Anime America - Comic Market 記念盾



Anime America
A Celebration of Japanese Animation and Culture

Confirmed Guests of Honor:
Johji Manabe
Creator of Gatchaman and Geronimo!
Fred Patten
Editor of the International Organization Adam Warren
Artist & Writer, Dray Fox
Haruka Takachino
Illustrator
Yoshinori Yonazawa
President of Japan Ultimo market Comic Market

June 25, 26, 27 1993

Other Confirmed Guests:
L. Lobo Bhushan
Author, Artist, Actor, Author
Asia Lee, Writer, Model, Voice
Robert DeJesus
Actor, Writer, Director
Dionay Dinh
Actor, Writer, Director
Cullen Dickey
Illustrator, Author, Editor of Ultra
Joe Duffy
Writer for the Marvel Comics Kingdom of Ultra
Crescent High School Founder, Andrew Fries
Les Mazzatorta
Illustrator, Author, Painter, Silent Motion, Les
Tom Graswinkel
Author, Writer, Director of Animation,
Production, The Very Far
Patrick L. Rybar
Author, Writer, Music
Terrykaka Saito
Illustrator, True North D
Rick Scherzer
Author, Writer, Special occasion
for me "Trek The Next Generation"
Toshiyuki Yamashita

**Santa Clara
Westin Hotel &
Convention Center
Santa Clara, California**

Anime America 告知チラシ

動漫世代
VOL.1
2002年発行

初次造訪—ACG之盛會

COMIKE 60 夏

見聞錄

文・史英姫

炎 漢口省頭の8月天、同人誌最大的盛會—Comi-Market、空進入第6回Comi-Market開幕。Comi、近來罕見の一年舉措兩屆。於是8月中、初開幕の場次便被稱為「Comi」、相對在12月下旬的冬季主開的場次被稱為「冬Comi」。基本上夏Comi與冬Comi除了舉辦季節有所差異外，以往在參觀的內容上也會有所不同。而Comi通常會有3天，分別在星期五、六、日，而冬Comi則只有星期六、日兩日的時間。不過2002年冬Comi則一反常態，將活動日期延續以住的兩天行程……

本欄的展覽會場依舊是大會所，熟悉的有明國際見習市場Big Stage，單音這回是第一次參加這